

<平成30年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

神奈川県 川崎市立高津中学校



平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間（50分）



2時限目
座学の時間（50分）



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日：平成31年3月12日（火）

■ク ラ ス：2年2組（34名）

■オリンピアン：田中 めぐみ 先生（陸上競技）【出場オリンピック/シドニー大会、アテネ大会】

■授業のながれ：運動の時間（1時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、今日は、2時間の授業を通して、皆と一緒にオリンピックについて学んでいく、と授業の目的を確認。
- ・3つのオリンピックバリュー「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」を紹介し、運動の授業では全力で皆と協力して取り組むよう伝えた。
- ・準備運動として、ストレッチをした後、長距離を走るためのポイントやコツを伝授。その後、タッチ鬼を全3回実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・6班対抗で障害物リレーを全3回実施。
- ・各回毎に結果を発表し、順位をさらに上げるための作戦タイムを設ける。



4. まとめ



- ・今日の授業のように、決められたルールの中で実践する時には、皆で協力して考えることが大切である。
- ・次の座学の時間は、オリンピックバリューについて詳しく学んでいくが、運動の時間に考えたこと、協力し合えたことなどを考えながら臨んでほしいと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・シドニー大会のレース中の写真や当時使用していたシューズを披露しながら、競技の特性や外国人選手との対格差等について解説。
- ・オリンピックに対するイメージ確認しながら、オリンピックバリューは、オリンピックが大切にしている考え方であることを説明。
- ・自身の経験を通じてオリンピックバリューを紹介。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：夢や目標を叶えるために/なりたい自分になるためにできること、取り組みたことをオリンピックバリューに当てはめて書き出してみよう。

- 発表：「勉強に集中する」「スタメンを継続するために努力する」「アメリカで働く」(エクセレンス)
 「チームメイトと協力をする」「友達と切磋琢磨する」(フレンドシップ)
 「身近な人に感謝する」「教えてくれる先生に感謝」「生活態度を良くする」(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューは普段から使うことができるもので意識しながら生活していくことによって、今よりも素晴らしい時間に変えることができる。一人ひとりが今できる努力をすること、全力で考え周りに感謝することによって道が拓け、周りの人が力になってくれることもあるので今日学んだオリンピックバリューを忘れず生活していってほしいと伝え、授業終了。

実施内容

■期 日 : 平成31年3月12日 (火)

■ク ラ ス : 2年1組 (35名)、2年3組 (34名)

■オリンピアン : 松島 美菜 先生 (水泳/競泳) 【出場オリンピック/ロンドン大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、今日はオリンピックバリュー(エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト)について考えながら、オリンピックやオリンピアンを身近に感じてほしい、と目的を確認。運動の時間は、一生懸命、皆で協力し、フェアプレー精神を持って取り組むよう伝えた。
- ・準備体操として、ストレッチ、じゃんけん勝ち抜けを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・8の字跳び (90秒×3回) を実施。引かなかったら0から数え直し、90秒間に連続で飛べた回数を競う。
- ・各回終了後に結果を発表し、さらに多く跳ぶための作戦タイムを設ける。

4. まとめ



- ・授業の冒頭意識するよう伝えたことが、しっかり実践されていたことから、皆自身がオリンピックバリューを体感できたと思う。
- ・座学の時間はさらにオリンピックを身近に感じられるように自身の経験を交えながら、詳しく学んでいく、と予告し授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・ロンドン大会出場を決めた日本選手権の映像を見ながら、当時の状況や競技について説明。
- ・オリンピック出場と薬剤師への挑戦について「両立」をキーワードに松島先生のオリンピックバリューに関するエピソードを紹介。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：日常生活の中でオリンピックバリューを感じられる出来事（部活や学校行事等）を書き出してみよう。
- 発表：「部活動で刺激を与え合い、高め合うことができた」「テストで良い点を目指して頑張った」
 「部活の大会とテストが重なった時、両立するために頑張った」（エクセレンス）
 「合唱コンクールで練習を重ねながら、団結力を深められた」「友達と勉強を教え合った」（フレンドシップ）
 「授業でクラスメイトの意見を大切に理解しようとした」「先生や家族に感謝」「友達のアドバイスを真摯に受け止めた」（リスペクト）

4. まとめ



- ・今日の授業を通してオリンピックやオリンピックを身近に感じられたかを確認。
- ・来年には 東京2020大会が開催されるが、選手として出場することだけでなく、応援することもオリンピックに参加することになる。是非オリンピックを楽しんでもらいたい、と伝え授業終了。

実 施 内 容

■期 日 : 平成31年3月13日 (水)

■ク ラ ス : 2年4組 (33名)、2年5組 (35名)

■オリンピアン : 中山 英子 先生 (スケルトン) 【出場オリンピック/ソルトレークシティー大会、トリノ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、今日はオリンピックやオリンピックバリュー(エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト)について知ってほしいと目的を確認。
- ・運動の時間の約束事として「全力で取り組む」「皆で協力する」「ルールを守る」という3点を設定。
- ・準備体操として、ジョギング、ストレッチの後、スケルトン、リュージュ、ボブスレーの姿勢、スケルトンのスタートを体験後、じゃんけん勝ち抜けを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・8の字跳び (90秒×3回) を実施。引っかけついても続きから数え、90秒間に跳んだ回数を競う。
- ・各回毎に結果を発表し、さらに多く跳ぶための作戦タイムを設ける。

4. まとめ



- ・冒頭に設定した3つの約束事を実践できていたと話し、オリンピックバリューについて座学の時間に詳しく学ぶことを予告。
- ・引き続き、3つの約束事を意識して授業に臨んでほしいと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・ソルトレークシティー大会で着用していたレーシングスーツとワールドカップで使用した靴を披露し、そり競技について紹介。
- ・クーベルタンが国際平和を唱えてオリンピックを復活させたことや、オリンピックシンボルの6色で大半の国旗を描くことができること等を説明。
- ・自身の経験を通じてオリンピックバリューを紹介。

3. グループワーク



- 発問：運動の時間で良かった点や意識した点等をオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表：「相手がいるからこそ、目標を持って頑張れた」「勝つために全力で考えた」「走るなど、全力でやった」
 「1回1回を大切に、ベストを尽くすことができた」(エクセレンス)
 「話し合いをしたことで、どんどん記録が伸びた」「全員で話し合いができた」「積極的にチームのために行動した」
 「協力することで、男女関係なく友情が深まった」「声かけができた」(フレンドシップ)
 「ルールを守ってゲームを楽しんだ」「仲間の気持ちを考えた」「相手の意見を尊重しながら話し合いができた」(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューは選手だけのものではなく、皆の身近にもあることを理解してもらえたのではないかと。これから成長していく過程において、色々なことがあると思うが、今取り組んでいること、目の前にあることを大事にしていくと将来につながっていくことを信じて、諦めずに努力してほしい。
- ・オリンピックはオリンピック選手になるためだけの大会ではない。色々な形で大会に関わり、身近にあるチャンスを楽しんで自分のものにしてほしい。
- ・日々の生活の中でもオリンピックバリューを思い出し、良いことも辛いことも全部が自分の力になると信じて、全ての自分を大事にしてほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真
2年1組



2年2組



■ 集合写真
2年3組



2年4組



■ 集合写真

2年5組



■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



2年5組



■ 修了証贈呈

